

①外国語(英語)コアカリキュラム対応表(一覧)

外国語(英語)コアカリキュラム対応表(一覧)

大学名	関西国際大学
学部・学科等名	グローバル学部グローバル学科

<小学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項	対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)
	教科に関する専門的事項			
	各教科の指導法			

<中学校> ※「教科に関する専門的事項」は、「一般的包括的科目」のみ記載すること。

ページ	各科目に含めることが必要な事項		対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)	対応授業科目(4)
02	教科に関する専門的事項	英語学	英語学			
03		英語文学	英米文学概論			
04-06		英語コミュニケーション	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ			
			英語スピーチで語る現代世界Ⅱ			
			英語スピーチで語る現代世界Ⅲ			
			英語ディベートで知る現代世界Ⅰ			
			英語ディベートで知る現代世界Ⅱ			
			英語ディベートで知る現代世界Ⅲ			
07		異文化理解	異文化コミュニケーション			
08	各教科の指導法	英語科教育法Ⅰ				
		英語科教育法Ⅱ				
		英語科教育法Ⅲ				
		英語科教育法Ⅳ				

<高等学校>

ページ	各科目に含めることが必要な事項		対応授業科目(1)	対応授業科目(2)	対応授業科目(3)	対応授業科目(4)
前掲02	教科に関する専門的事項	英語学	英語学			
前掲03		英語文学	英米文学概論			
前掲04-06		英語コミュニケーション	英語スピーチで語る現代世界Ⅱ			
			英語スピーチで語る現代世界Ⅲ			
			英語ディベートで知る現代世界Ⅱ			
			英語ディベートで知る現代世界Ⅲ			
前掲07		異文化理解	異文化コミュニケーション			
前掲08	各教科の指導法	英語科教育法Ⅰ				
		英語科教育法Ⅱ				
		英語科教育法Ⅲ				
		英語科教育法Ⅳ				

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語学

全体目標： 中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する英語学的知見を身に付ける。

- 到達目標： 1) 英語の音声の仕組みについて理解している。
2) 英語の文法について理解している。
3) 英語の歴史的変遷及び国際共通語としての英語の実態について理解している。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語学	項目			
	到達目標 ／授業回	1)	2)	3)
英語学 (授業科目名及び授業回 のページ番号)	1			○
	2	○		
	3	○		
	4	○		
	5	○		
	6	○		
	7	○		
	8	○		
	9	○		
	10	○		
	11	○		
	12	○		
	13	○	○	
	14	○	○	
	15			
英語学 (p1)	1			○
	2		○	
	3	○		
	4		○	
	5		○	
	6		○	○
	7			○
	8			○
	9			○
	10			○
	11			○
	12			○
	13	○		○
	14	○		○
	15			○
英語学 (p4)	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13	○		○
	14	○		○
	15			○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語文学

全体目標:

英語で書かれた文学を学ぶ中で、英語による表現力への理解を深めるとともに、英語が使われている国や地域の文化について理解し、中学校及び高等学校における外国語科の授業に生かすことができる。

- 到達目標: 1) 文学作品において使用されている様々な英語表現について理解している。
2) 文学作品で描かれている、英語が使われている国や地域の文化について理解している。
3) 英語で書かれた代表的な文学について理解している。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語文学	項目				
		到達目標／授業回	1)	2)	3)
英米文学概論 (p9)	1				○
	2	○	○		
	3		○		
	4	○	○		
	5		○		
	6	○	○		
	7	○			○
	8	○			
	9		○		○
	10	○	○		
	11		○		
	12	○	○		
	13	○	○		○
	14	○	○		○
	15				○
(授業科目名及び授業回 シラバスのページ番号)					

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

英語コミュニケーション

全体目標： 中学校及び高等学校において、生徒の理解の程度に応じた英語で授業を行うための英語運用能力を身に付ける。英語運用能力としては CEFR B2レベル以上を目標とする。また、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を確かめながら英語でインタラクションを進めていく柔軟な調整能力を身に付ける。

- 到達目標： 1) 様々なジャンルや話題の英語を聞いて、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。
 2) 様々なジャンルや話題の英語を読んで、目的に応じて情報や考えなどを理解することができる。
 3) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で話すこと[やり取り・発表]ができる。
 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。
 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語コミュニケーション	項目 到達目標 ／授業回					
		1)	2)	3)	4)	5)
(授業科目名及び授業回 シラバスのページ番号)	英語スピーチで語る現代世界Ⅰ (p12)	1	○			
		2	○			
		3	○			
		4		○		
		5			○	
		6		○		
		7	○		○	
		8	○			
		9	○	○	○	○
		10				
		11				
		12				
		13				
		14	○	○		○
		15				○
英語スピーチで語る現代世界Ⅱ (p14)		1	○	○	○	○
		2	○			
		3				
		4				
		5			○	
		6	○			
		7		○	○	
		8			○	○
		9	○	○	○	○
		10				
		11				
		12				
		13				
		14	○		○	○
		15	○		○	○

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語コミュニケーション	項目 到達目標 ／授業回					
		1)	2)	3)	4)	5)
英語スピーチで語る現代世界Ⅲ (p16)	1	○	○	○	○	○
	2	○	○	○	○	○
	3		○			
	4		○			
	5	○				
	6	○				
	7			○		
	8			○		
	9			○		
	10	○	○	○		○
	11			○	○	
	12			○	○	
	13	○	○	○		
	14	○	○	○		
	15	○		○		○
英語ディベートで知る現代世界Ⅰ (p18)	1		○			
	2		○			
	3	○	○			
	4			○		
	5			○		
	6			○		
	7		○		○	
	8			○	○	○
	9		○	○		
	10		○	○		
	11	○		○		
	12	○		○		
	13			○	○	
	14			○	○	
	15					○

授業科目名及び授業回
(シラバスのページ番号)

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

英語コミュニケーション	項目 到達目標 ／授業回					
		1)	2)	3)	4)	5)
英語コミュニケーション (授業科目名及び授業回 シラバスのページ番号)	英語ダイアログで知る現代世界Ⅱ (p20)	1	○	○	○	○
		2	○	○	○	○
		3				
		4	○			
		5				
		6		○	○	
		7	○			
		8		○	○	
		9	○			
		10	○	○		
		11	○	○		
		12				
		13	○	○	○	
		14			○	○
		15			○	○
英語コミュニケーション (授業科目名及び授業回 シラバスのページ番号)	英語ダイアログで知る現代世界Ⅲ (p22)	1	○	○	○	○
		2			○	
		3	○			
		4		○		
		5	○		○	
		6		○	○	
		7	○		○	
		8		○	○	
		9			○	
		10			○	
		11		○	○	
		12		○	○	
		13	○		○	○
		14	○		○	○
		15			○	○

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

②外国語(英語)コアカリキュラム対応表

異文化理解

全体目標：社会や世界との関わりの中で、他者とのコミュニケーションを行う力を育成する観点から、外国語やその背景にある文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題について学ぶ。あわせて、英語が使われている国や地域の文化を通じて、英語による表現力への理解を深め、中学校及び高等学校における外国語科の授業に資する知見を身に付ける。

- 到達目標：1) 世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を理解している。
 2) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性及び異文化交流の意義について体験的に理解している。
 3) 英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化について基本的な内容を理解している。

＜外国語(英語)コアカリキュラムチェック表＞

異文化理解	項目			
		1)	2)	3)
異文化理解 (授業科目名及び授業回のページ番号)	到達目標／授業回			
	1		○	
	2	○		○
	3	○		
	4	○		○
	5	○	○	○
	6	○		○
	7	○		
	8	○		
	9	○		
	10	○		
	11	○	○	○
	12	○		○
	13	○		○
	14			○
	15	○		○
異文化コミュニケーション (p28)				

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。

【英語科の指導法【8単位程度を想定】】

・全体的目標：中等学校及び高等学校における外国語(英語)の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付ける。

(1)カリキュラム・シラバス
中学校及び高等学校の英語教育の基礎となる学習指導要領及び教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標及び年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画について理解する。また、小・学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領並びに教材、教科書について知るとともに、小・中・高等学校の進路の在り方について理解する。

到達目標：1) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の学習指導要領について理解している。

- 2) 中学校及び高等学校の外国語(英語)の教科書について理解している。
- 3) 学習指導要領の「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力(以下、「3つの資質・能力」といふ)ととも、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。
- 4) 小・学校の外国語活動・外国語科の学習指導要領や教科書等の教材、並びに小・中・高等学校を通した英語教育の在り方の基本について理解している。

(2)生徒の資質・能力を高める指導
一般目録：中学校及び高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域（1）関心と「読むこと」「話すこと」「

取り「話すこと」発表」及び「書くこと」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙、表現、文法の指導に於ける基本的知識と技能を身に付けたとともに、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。また、教材及びICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や置かれた環境に応じた指導について理解する。

到達目標: 1) 聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。
2) 話すことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。

- 3) 語干ごとくやり取り、発声[の]の指準について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 4) 書くことと指準について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 5) 複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 6) 発声の音声的な特徴に関する指導について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 7) 文字の音声について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 8) 語彙、表現に関する指導について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 9) 文法に関する指導について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 10) 属文化理解に関する指導について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 11) 教材及びICTの活用について理解し、授業指準に生かすことができる。
- 12) 英語のインストラクションについて理解し、授業指準に生かすことができる。
- 13) ALT等とのティー・チーム・ティーチャーズについて理解し、授業指準に生かすことができる。
- 14) 生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指準に生かすことができる。

(3) 培養つくり
 一般目標：
 中学校及び高等学校の学習到達目標に基づく各学年や科目（高等学校）の年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画及び授業の組み立て方について理解するとともに、学習指導案の作成方法を身に付ける。

到達目標: 1) 学習到達目標に基づく授業の組立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。
2) 学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。

(4) 学習評価
 一般目標：
 中学校及び高等学校における年間を通し学習到達目標に基づき、評価の在り方、個別学習状況の評価に

定つ(各單元における評価規程の設定、さらに、評定への総括の仕方)について理解する。また、言語能力の基礎と評価の基礎(生徒が実際に用ひたり量ひたりする活動の過程と結果を評価する方法)について理解する。

到達目標：1) 観点別学習状況の評価とそれに基づき評価規程の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことが

(5) 第一言語獲得

2) 言語能力の測定と評価 (パフォーマンス評価を含む) について理解し、指導に生かすことができる。

学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かすことができる。

到達目標：1) 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。

[illegible]

各到達目標を扱う授業回に○を付すこと。